

青森県住教育学習指針等検討委員会(第1回委員会)発言要旨及び対応方針案

No.	主な意見	対応方針案
1	<ul style="list-style-type: none"> ・建築教育ではなく住教育であり、住まい方であるということを意識してもらうことが重要 ・「住まい方」を教えるとは、何が最もリビングリテラシーの向上になるのか、空き家の問題、持っていた家をこれからどうしていくか、エネルギーを考えたあまり暖房しない住まい方、持ったまま空き家にしてしまうことがないような住まい方などを考えること ・教材は、完成形ではなく、2・3年現場で使いながら、現場の先生方や子ども達の反応をみながら、改訂ありきでやらなければならない(北原委員) 	教材については、適宜、追加・修正、改定できる仕組みをつくりたい
2	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方に喜ばれるデータや素材をどんどんアップデートして、先生方に自由に使ってもらう方がよい ・改訂を続けるという意見に賛成(馬場委員) 	ネット上でデータベースを構築し、コンテンツを充実させていきたい
3	<ul style="list-style-type: none"> ・住教育という言葉の定義が必要 ・設置要綱や指針などに「このように考えています」「基本計画に載っています」と分かるように(橋本委員長) ⇒住教育は「住環境教育」のイメージだが、厳密な定義はしていない ・家の中から、近所との関係や環境も含めたもの(北原委員) 	住教育の定義や概念については、指針に位置づけたい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのライフスタイルを自己選択できるよう、小学校や中学校でしっかりと基礎となるような教育をすることが必要(馬渡委員) 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容は、時代に応じて、知識などが変わっていくことを捉えながら、核となるリビングリテラシーはどこを押さえたらよいかを大事にしながら、深めていくこと(橋本委員長) 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットをどこにするか、家庭科学習か、学校教育か、地域イベント的にアプローチしていくのか、実施主体として、行政が続けていくのか、専門家団体に渡していくのか、それからもっと新しいものを立ち上げていくのか、定めていくこと ・これからもずっと行政によって予算確保していくことは難しいため、費用がかからない工夫、稼ぐことができる仕組みづくりが必要(馬場委員) 	住教育に協力する団体等との相互利益を考慮する等、持続可能な仕組みを構築したい
7	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅を持つことだけではなく、借りるという発想、豊かに集合住宅に住むということを教えていくことも大事 ・集合住宅をリニューアルして住むこと、いわゆるリノベーションや、人の住んでいない家に手を入れるなど自分でカスタマイズして返す時に元に戻すような考え方等、どんどん新しい住まい方を入れた方がよい(北原委員) 	

8	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会に出る先生方には、自分も興味があり積極的な先生と、苦手で教科書を読むだけで済ませている先生がおり、どこをターゲットにするのか ・講習に出てこない先生方もたくさんいるはずであり、そのような先生に何をどのように伝えていくか議論が必要(馬場委員) 	<p>ネット上でデータベースを構築し、コンテンツを充実させていきたい</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・住居は人生のライフステージによりいくつかあり、子どもが育つ家、家を出て一人暮らしを始める家、結婚して子どもを育てる家、最後に死ぬ時の家、そのひとつひとつに意識的になってもらうことが大事 ・借家やアパートでも、豊かに暮らすような意識を持ってもらうこと ・ライフステージの話であれば、家庭科の先生も専門家になることができ、子ども達に話ができる(蟻塚委員) 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校の切り分けについて、学習指導要領に則り使い分けるものにするとうい(馬場委員) 	<p>意見のとおり対応検討</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校の先生向け、授業のバックボーンになるためのデータや資料集のようなものと、子ども達のための副読本(教材)は別 ・小学校の副読本として中学校以上の情報を詰め込んで、表現だけ柔らかくしようとすると中途半端 ・リビングリテラシーだから色々なものが関係するということであり、技術・家庭科や総合的学習と書いている以上、特に小学校の場合、理科などの他教科が絡むことを書いておく方が先生も楽、子ども達も興味を持つ ・「住教育学習」という言葉は、少し問題 ・高校生に教えるべきはライフスタイルではなく、ライフステージ(北原委員) 	<p>教材に付属した教員向けの資料の作成を検討</p> <p>「住教育学習指針」の名称については、見直しを検討</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校における住教育学習の目標」の立て方が、家庭科の学習指導要領の抜粋のようにになっている ・リビングリテラシー、青森県の目標として、発達段階に応じて、何を大事にしていくかというところを表さなければならない ・リビングリテラシーを育てることが、総合的学習の時間なり、新しい教育課程の理念でも、横断的な視点は大事 ・寒い所では、エネルギー効率を考えると、集合住宅の方が合理的など、青森県の住宅に関しても、集合住宅の良さも伝えて、自分どちらを選ぶか、という判断能力を育てること ・副読本では、データを活用すると社会科でも活用できる、総合的学習ではこのように活用できる、などとヒントをつけていけばよい ・防災教育や消費者教育ではこのように展開できるなどと、ヒントをサジェスチョンすればよい ・家庭科教材だから家庭科でしか使えないということではないので、指針を見直していただきたい(橋本委員長) 	<p>目標については簡潔に表現した</p> <p>学習内容については、学習指導要領に基づき、学校段階毎の実施内容を、解説版で説明したい</p> <p>教員向け資料等では他教科との関連性がわかるよう整理したい</p>

13	・家庭科だけではなく、防災やまちづくり、理科や社会など別分野でも取り扱ってもらうことを、今後は考えていかななくてはならない (馬場委員)	
14	・青森県として住教育の指針のポリシーを明確に打ち出すようなものがほしい(馬渡委員)	指針に反映させたい
15	・子どもの頃から住空間に対して意識的に考えて下さいということは、その後、子どもが大きくなり持つことになる住空間が変わってくることに繋がる ・小学校の頃から住空間について意識できるようになればよい (蟻塚委員)	
16	・馬場さんや蟻塚さんのような方から話を聞きながらやっていくことが必要 ・委員会等、回数を限定されると、できるのかという疑問もあるため、柔軟に考えてほしい(北原委員)	会議開催については、随時対応したい
17	・教育現場はデジタル化が進んでいるので、例えば You Tube のコンテンツを作る等、ペーパーベースに限らず、デジタルコンテンツに展開することも想定した方がよい(馬渡委員)	ネット上でデータベースを構築したい
18	・教材ということでは、実験箱などを北総研で作成し、学校等へ貸し出ししている(馬場委員)	学校側の要望を把握し対応したい
19	・やるべきことは、そのようなものがあるという情報を先生方に伝えることであり、そういう意味のデータベース、ポータルゲートが必要 (北原委員)	
20	・教育センターの講座でも同時に実験しながら、主体的に先生方が関わることは良いことであり、そこで得た情報をどのようにして子ども達の力にしていくかが教員の力 ・新しい教育課程の方向が出ていて、平成 30 年度に変わるからといって捨てられるものであっては困る ・防災部署や消費者部署など色々な所で教育は考えられているので、仲間を増やしていき、全体を関連付けた住教育が青森県民の幸福、それぞれの生き方につながっていけばよい(橋本委員長)	指針は、住教育の軸となる基礎的な部分について記述したい 関係部局と連携し、関連分野情報について充実させたい